

# KOMAZAWA X TOKYO DAIGAKU 駒澤大学2-0東京学芸大学

キャプテン鈴木祐(写真中央⑤)は復帰初の試合を自らの先制ゴールで飾った。チームメイトも彼の復帰を待ち望んでいたことだろう (撮影・野澤俊介)



## キャプテン鈴木が戦列復帰! 勢い止まらず4連勝!!

### DF陣充実の3試合 連続無失点!

第2節からの連勝で波に載る駒大。しかし今節の東学大戦から強豪との対戦が続く。駒大の真価を問われる戦いが始まった。

開始1分早くも試合が動く。中後のFKを戦列復帰した鈴木祐が頭で合わせて先制点を挙げる。

「ボールが来たのでとりあえず走って行ってジャンプしたら入った」と本人は謙虚の弁だった。中後が「立ち上がりには取れて、それから乗れた」と語ったように、この先制点を機に、駒大が試合の主導権を握った。原のロングスローや新川のスピードを生かした果敢な前線への飛び出しから幾度となくチャンスを作り出す。守備陣も鈴木祐の的確なラインコントロールを中心に、東学大攻撃陣をシャットアウト。対面の久保田にもほとんど決定的な仕事をさせず、前半終了。

後半に入り東学大を突き放したい駒大だったが、なかなか追加点を奪えない。そんななか、駒大は岩本に代えて東平を投入。この起用があつた。ピッチに立ったわずか9分後の63分。原がドリブルでゴール前に持ち込んだボールを右足で冷静に流し込み、公式戦初得点を記録した。「あと1点取れば試合が決まると思っていた。その1点を狙っていた」(東平)と見事に秋田監督の期待に応えた。東平このゴールで勢いづいたのか、幾度となく相手DFラインの裏へ抜けて良質のクロスを上げるなど、調子の良さをうかがわせた。望みの追加点をあげた駒大はその後も危なげなく試合をすすめ、2-0と3試合連続で完封勝利を収めた。

ここまで4連勝とその勢いはとどまるどころを知らない駒大。しかし選手たちにおこる気持ちは全く無い。「強いチームは1試